

《土佐日記》

「ジャンル」日記文学

記録としての漢字日記とは違った、文学としての  
仮名日記の草分け。

「成立」平安時代

「作者」紀貫之（生年不明）九四五年）

『古今和歌集』の撰者  
『古今和歌集仮名序』を執筆

「内容」旅日記

\* 任地である土佐から京へ帰るまでの五十五日間の事を記している。「日次（毎日）の日記」で、一日も記事の省略はない。

\* 船中の人々の言動・人情の厚薄・自然の景観・亡児への追慕・京を待望する心情・帰京の感想等が諧謔に富んだ表現で書かれている。

「特徴」最初の仮名日記

紀貫之が自らを女性に仮託して記している。

「日記文学の成立」

平安時代

土佐日記（紀貫之）

蜻蛉日記（藤原道綱母）

和泉式部日記

紫式部日記

更級日記（菅原孝標女）

讃岐典侍日記

鎌倉時代

十六夜日記（阿仏尼）

《土佐日記》

（承平四年十二月二十一日）

原文

男もすなる日記といふものを、女もして

みんとてするなり。その年のしはすの

二十日あまり一日の日の戌の時に、

門出す。その由、いさやかにものに書きつく。

ある人、県の四年五年はてて、例のこと

どもみなしをへて、解由などとりて、

住む館より出でて、船にのるべきところへ

わたる。かれこれ、知る知らぬ、送りす。年ごろ

よくくらべつる人々なん、わかれがたくおもひて、

日しきりにとかくしつ、ののしるうちに夜

ふけぬ。

(注) 1 伝聞・推定のなり。終止形接続。  
2 断定のなり。連体形接続。  
3 県＝地方官勤務  
4 解由＝国司などの任期が終わった時、前任者から後任者に諸務を引き継ぎ、後任者がそれらに異常や怠慢のないことをしるして、前任者に渡す書状。  
5 年ごろ＝数年来。「日ごろ」といえば、数日来」を表す。

通釈

男の書くものであると聞いている日記というものを、女である私も試みようと思つてこうして書くのである。ある年の十二月の二十一日の午後八時ごろに旅立つ。その様子を、わずかに書きつけておく。

ある人が、地方官勤務の四、五年の任期が終わって、おきまり離任に際する事務の引継ぎなど（のこと）を全部済ませて、離任証明の書類などを受け取つてから、（今まで）住んでいた官舎から出て、船に乗るはずの場所へ移る。あの人の人、知つている人や知らない人などいろいろな人たちが、見送りをする。（中でも任国での）数年間、親しく付きあつてきた人々は、特に別れることをつらく思つて、一日中あれこれと私の世話を（して、大騒ぎする）うちに夜がふけてしまった。

《土佐日記》

(十二月二十二日～二十四日)

原文

廿二日に、和泉の国までと、たひらかに願立つ。

藤原のときぎね、船路なれど、馬のはなむけす。

上中下、酔ひあきて、いとあやしく、潮海

のほとりにて、あざれあへり。

廿三日、八木のやすのりと、いふ人あり。この

人、国にかならずしも言ひ使ふものにも

あらざなり。これぞ、たはしきやうにて、馬

のはなむけしたる。守からにやあらん、国人

の心のつねとして、「いまは」とて見えざ

なるを、心あるものは恥ぢずになん来ける。

これは、ものによりて寝むるにしもあらず。

廿四日、講師、馬のはなむけしに出で

ませり。ありとある上下、童まで酔ひしれ

て一文字をだに知らぬものしが、足は

十文字にふみてぞあそぶ。

(注) 1 潮海=塩分を含んでいる普通の海。淡海・潮の対語。

2 あざる=「鯨」の字を宛て腐るの意。「戯」の字を宛てぶざけるの意。こは両義を活かし、「防腐効果のある塩水のほりにいるにもかかわらず腐ったよ」にぶざけあつと洒落している。

3 講師=僧侶の職名。

通釈

二十二日に、(どうか)和泉の国まで(無事に行き着けますように)と、心静かに神仏に願掛けをする。藤原のときぎねが、(この旅は馬は使わな(い)船の旅であるけど、馬のはなむけ)送別の宴(を)してくれ。身分の高い者から低い者も皆、すっかり酔っ払って、たいそう見苦しく、(物など腐ることのないはずの塩水のそばなのに不思議なことに腐っているように)海のそばで、ぶざけあっている。

二十三日、八木のやすのりという人がやってくる。この人は、国司でそれほど親しく召し使っているような(深い縁故の)者でもなさそうなのだ。(それなのに)この人は、おごそかなさまで、送別の宴をしてくれた。国司の人柄によるのであるうか、土着の人の人情の常としては、(国司が離任して帰京してしまうからには)「もう顔出しをする必要もない」と思っ(て)見送りにも来ないものであるように、(このやすのりのように)真心のある人は(他人のおもわくなどを)気にかけないでやって来たのである。これは、よい饞別の品をもらったからそれでほめるといっわけではない。

二十四日、国分寺の住職が、送別の宴をしいおいでくださった。そこに居合わせた人々は皆身分の上下を問わず、子供までが正体もなく酔っ払って、(手で書くとすると)「の字さえも書けないような(無学の)者が、足では十の文字を踏んで(千鳥足で)遊んでいる。

【練習しよう】

問一 『土佐日記』について、次の問いに答えよ。

作者は誰か、漢字で記せ。

『土佐日記』が成立した時代はいつか。

問二 線部の助動詞の意味を答えよ。

男もなむなるなる日記といふものを…

ののしるしるうちに夜よふふけぬ。

言いひ使つかふものにあらあらざざなり。

守まもららにやあらあらん。

馬うまのはなむむけしに出いでませませり。

問三 線部の単語の意味を答えよ。

年としころころよくよくくらべくらつる人々ひとなん…

ののしるしるうちに夜よふふけぬ。

酔よひああきて、いとああやしやしく、

たたはしはきやきううにて、馬うまのはなむむけけしたる

問三	問二	問一	解答
数年来	伝聞	紀貫之	
大さわぎする	完了 打消	平安時代	
見苦しく	推量		
饑別	完了		